

第5回分科会資料（プラン案）に対する各委員からの意見と対応

No.	意見	対応
1	要介護の伸びが抑えられ、要支援が増えている理由・原因は何か？	平成27年度から29年度までの第6期期間中における、要支援者・要介護者数については、5歳刻みの高齢者人口の将来推計値と年齢階層別の認定率実績値に施策の効果を考慮して算出しております。しかし、柏市における要支援者数の急増の要因については、把握できておらず、地域支援事業の上限超過の主要因でもあり、増減の理由についての分析が必要であると認識しております。また、第7期計画では、各事業の参加者数といった事業量や事業効果を評価・検証に加えて、本市の現状や課題を明らかにするため、フレイル予防の取り組みや介護給付適正化事業などの効果の検証に取り組みます。地域の支え合いを推進する取り組みは、受け皿の1つとして機能するものと考えております。
2	要支援／要介護の伸びについて根拠を示し、なぜ増えたのか、効果があったのかそういういったものが次期計画策定の根拠になるのでエビデンスを示す必要がある。	
3	フレイルチェックに通っていた人の意識が高まったという結果があるが、その後何をやったかというところまでデータを取っているか。フレイルチェックを受けた人がその後活動するようになったのか、ロコモフィットがどういう事業に繋がっていたかを全部取るということか。また、ロコモフィット、通いの場、地域での支え合いのそれぞれの寄与度、効果がわからない。	
4	フレイル予防の中で健康な高齢者が増えてくるのはいいと思うが、一方で健康格差として教育を余り受けていない方、所得の少ない方はどんどん差が出てくる。健康格差を縮小するためには受け皿が必要ではないか。	
5	介護医療院を新たに整備しないと、慢性的な症状の方はどうなるのか？受け皿があるのか？	

6	<p>認知症の早期発見の事業はとても良いが、認知症は治る病気ではないからインフォーマルな受け皿は必要ではないか。現状を調べ指標を作ると良いのではないか。</p>	<p>P81に指標として「認知症にやさしい事業所数」を記載いたしました。また、第2部第2章第3節「認知症施策の推進」において総合的に取組みを進めてまいります。</p>
7	<p>これから介護を受ける方が増えるがヘルパーは少ない。夜勤や痰吸引ができるヘルパーはすごく減っている。今後の必要人数、事業所数等の指標を調査し、2025年問題に対応するべきではないか。</p>	<p>介護人材の確保は重要な課題と認識しており、第2部第3章第1節「介護サービスの基盤の整備」に「介護人材の確保」を事業として位置付け取組みを進めてまいります。また、ご指摘のあった痰吸引の研修等のヘルパーの質の向上については、現状で職種別・技能別にどのくらい不足しているのか等の実態を把握できていないため、7期期間中の課題として対応いたします。</p>
8	<p>高齢者の外出や社会参加を促進するためのまちづくりについて、交通網は重要。ここにも満足度のような指標があった方が良い。南部などは足がなくて出られない高齢者の方もいらっしゃるの指標があった方が良いのではないか。</p>	<p>高齢者の交通手段の確保は重要な課題と認識しております。ご指摘の点について第7期計画案では具体的な指標は掲載しておりませんが、第2部第3章第3節に「市内横断的な推進体制の整備」として新たに連携推進を位置付け、今後、7期期間中に公共交通を担当するまちづくり部門と連携策を協議してまいります。</p>
9	<p>高齢者の自動車運転免許証を返納しても暮らしていける環境整備が重要となる。</p>	
10	<p>地域支えあい会議に出席してみると、市では支えあいを進めているところだが、地域の方の意見では介護保険の認定を受けている人は1割・2割負担なのだから介護保険サービスを使えばよいという意見をいただいた。市の施策として地域のことは地域でできればということを進めているのが、どれだけ浸透しているのか疑問に思った。</p>	<p>支えあいの推進については、市広報・町会長会議・関係団体の役員会・出前講座などの機会を捉えて周知しております。身近な地域の活動に結びつけるため、今後も引き続き周知に取り組んでまいります。</p>
11	<p>ケアマネジャーの中にもいきいきプラン21の存在を知らない方が多数いる。市が頑張っているのは肌で感じているが、これをどう普及したらいいのかということを考えていただきたい。</p>	<p>第7期プランの周知方法は、従前から行っている広報かしわへの折込チラシの作成やホームページでの公開と各種出前講座等での周知を図る他に、ご指摘のあった地域支えあい会議や地域包括支援センターの地区別研修会及び介護支援専門員協議会等の場を通じて地域関係者への周知を図ってまいります。</p>

12	<p>「有償ボランティア」という言葉は他では使われていないと思うが、有償という言葉とボランティアの無償性との矛盾を指摘される方もいらっしゃるので、「有償の助けあい」としてまとめた方が良いのではないか。</p>	<p>第2部第2章第1節「地域での支えあい活動の推進と相談体制の充実」の「現状と課題」の該当箇所を「有償の助けあい」に修正いたしました。</p>
13	<p>社会参加は多様なものだが、重点施策として書かれているものはすごく限られている。全部は書かずとも整理することが必要ではないか。例えば町会の活動、地域貢献などの活動も項目だけでもあった方が良い。</p>	<p>第2部第1章第3節「多様な社会参加の促進」に掲載した事業名「地域でのボランティア活動の推進」の内容を修正いたしました。また、59ページに「支えあい」の重層的な構築を目指している説明図を追加いたしました。</p>
14	<p>単身世帯の食事の充実が課題である。近所に食堂を整備することや配食サービスの検討が必要ではないか。</p>	<p>第2部第2章第1節「地域での支えあい活動の推進と相談体制の充実」において、通いの場等の近所の居場所作りに取り組んでまいります。引き続き、柏市社会福祉協議会、地域支えあい協議会と検討を進め、生活支援サービスの基盤整備に取り組んでまいります。</p> <p>また、ご指摘の単身世帯高齢者の食事の充実については、今後一層重要な課題となることが予想されます。食事は毎日とるものであり、また、高齢者人口の増加を考えますと、民間事業者の商業ベースの充実を図っていくことが現実的な対応策であると思われまます。</p>
15	<p>見守り・おせっかいな関係が制度的になっていくと良いのではないか。</p>	<p>（この欄は14番目と重複する内容のため、ここでは省略します）</p>
16	<p>認知症になっても単身世帯で暮らし続けられるようになることが重要ではないか。</p>	<p>第2部第2章第4節「認知症施策の推進」において、認知症の早期発見や支援に向けた様々な施策を展開を位置づけており、今後も住み慣れた地域で安心して生活できるよう各種取組みを進めて参ります。</p> <p>また、第3章第1節「介護サービスの基盤の整備」において、認知症グループホームの整備方針を記載しています。グループホームは需給を勘案し公募により整備を進めてまいります。</p>
17	<p>介護予防の取組は、口腔・栄養・運動器により踏み込んだ形にしてもらいたい。介護予防に則った歯科検診の実現も必要ではないか。</p>	<p>ご指摘の点はフレイル予防の取組みの中で重要な視点です。第2部第1章第1節「フレイル予防の推進」において具体的な対応を図ってまいります。</p>

※No9, No14－17は第5回分科会以降にいただいたご意見です。